

学校教育目標

知 学ぶ意欲を育む生徒 **徳** 豊かな感性を育む生徒 **体** 逞しい心身を育む生徒

明野中学校区が目指す15歳の子どもの姿

**「すべきこと・なすべきこと」から逃げずに、ひたむきに努力する子ども
思いやりの心をベースに「正しいこと・善いこと」を判断し行動する子ども**

何ができるようになるか（今年度の重点目標）

○自らの人生を切り拓くための「**学力・体力の定着と向上**」

○自立と共生の基盤となる「**自主性・主体性の育成**」
自 立 試 行 錯 誤

1 学校経営の基底

「教育効果の高いチームとしての学校づくり⇒信頼され活力ある学校づくり」の推進

それぞれの専門性を有し持ち味の異なる教職員が、「明野中学校区が目指す15歳の子どもの姿」を共有し、組織の一員として自らの役割を果たしながら繋がることで高い教育効果を生み出します。そして、ここに活力が生まれ、保護者や地域からの信頼が醸成されます。この活力と信頼こそが、子どもの確かな成長を保障する学校経営の基盤となります。

生徒第一主義（生徒にとって意味や意義があるか。生徒の成長につながるか。）

学校のすべてのマネジメントに共通する要諦は、子どもとの学び合いの事実に基づき学ぶことです。教育課程を実施する各学校にあって、このマネジメントの責務なしに先生の役割は意味を成さないものです。子どもの具体的な姿をもって教育活動の検討を行い、その成果を確認します。

2 明野中学校区が目指す15歳の子どもの姿

「すべきこと・なすべきこと」から逃げずに、ひたむきに努力する子ども

「自主性・主体性」の育成には、生徒一人ひとりが自分のこれからの生き方を見渡し、具体的な目標を設定することが極めて重要である。しかし漠然とした夢として語ることができても、行動変容を促す動機付け程度となると、なかなか難しい。

だからこそ意図的・計画的な仕掛けとなる「キャリア教育」の推進が必要となる。

キャリア教育とはキャリア発達を促すことを目的とした教育的働きかけであり、具体的には次の4つの基礎的・汎用的能力を育てるものである。

- ・人間関係形成・社会形成能力（学級や生徒会でよりよい人間関係をつくり、集団を高めていくこと）
- ・自己理解・自己管理能力（自分自身を見つめ、感情や行動をコントロールすること）

- ・課題対応能力（悩みや課題を、乗り越え解決していくこと）
- ・キャリアプランニング能力（将来の夢を考える機会を設定すること）

「〇〇教育」「基礎的・汎用的能力の育成」などという新たな特別なものという感があるが、いずれも既に教育課程全般にわたってその育成に取り組んでいることばかりである。

「すべきこと・なすべきことに取り組む」ためには「目標の設定」が必要となるが、そのためには「すべきこと・なすべきことに逃げずに取り組む」ことが不可欠ということになる。そして、その「すべきこと・なすべきこと」とは日常的に取り組んでいる活動ということになる。「将来の夢も、結局は、今の自分の足元から始まるもの」ということである。

キャリア教育を明確に推進することを全教職員と生徒、保護者で共有し、意図的・計画的に教育活動をつなげることでキャリア発達を促す。このことでよりよい行動変容を生徒に迫り、「自主性・主体性」の育成を図っていく。

思いやりの心をベースに「正しいこと・善いこと」を判断し行動する子ども

好むと好まざるに関わらず、加速度的に社会は変化している。ICT 技術の飛躍的な進歩を背景に様々なイノベーションが引き起こされ、その様子は「第4次産業革命」とも形容されている。国際化や少子化により産業構造の流動化も激しく、先行きの不透明さに拍車をかけている。

だからこそ次年度から中学校で全面実施される学習指導要領では、この変化の荒波をチャンスとするために、他と協働しながら（正解ではなく）最適解を見出していく資質・能力をこれからの学校教育で育成することとしている。GIGA スクール構想や学びの自立化・個別最適化、STEAM 教育も、すべてはこのためと言えよう。

この活動の成否は、もちろん「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」の修得は十分条件となるが、「人間性」がその基盤となるのではないだろうか。

なぜなら、繰り返しになるが革新的な ICT 技術と国際化がないまぜとなり、人と人の繋がりが広がったり深まったりしており、そのような状況の中、価値観は多様化する一方で、異なる他者と協働していくためには「自主性・主体性」とともに「相手を理解し尊重する態度＝思いやり」が必要不可欠な資質・能力となるからである。このコロナ禍によっても明らかにされたことである。

AI が人間にとって代わっていったとしても、その価値がグラデーション化する「正しさ」や「善さ」を判断できるのは人間だけのはずであり、それが自立して生きていく上で全ての判断基準になる。「学力や体力の定着と向上」「自主性・主体性の育成」が図られた具体的な姿として、『思いやり』の心をベースに「正しいこと・善いこと」を判断し行動する生徒」を設定する。

3 何ができるようになるか【学校教育の基本】

「学校教育目標」「明野中学校区の目指す15歳の姿」に向けて、学校教育の基本となる「何ができるようになるか」を、引き続き次の通りとする。

自らの人生を切り拓くための「学力・体力の定着と向上」

急速な技術革新を背景とした社会・経済の流動化にしなやかに対応していくことができるよう、基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、思考力、判断力、表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養は学校が果たすべき責務である。

また、これらの活動の源は体力となる。体力は健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実に大きく関わっており、「生きる力」を支える重要な要素である。まさに「健全なる精神は、健全なる肉体に宿る」です。生徒の心身の調和的発達を図るために、運動を通して体力を養うとともに、望ましい食習慣や生活習慣を形成していく。

自立と共生の基盤となる「^自自主性・^{試行錯誤}主体性の育成」

自立した人間として他者と共によりよく生きる（「自立と共生」）ことは、北海道教育の基本理念とするところ。その基盤として、本校の生徒の現状や中学生という発達段階を踏まえ、「自主性」「主体性」の育成を重点とする。「自主性」と「主体性」の押さえは、それぞれ次の通り。

「^自自主性」…目標の達成に向けて、なすべきことに自発的に、率先して取り組む態度。やるべきことをきちんと把握し、自発的に、正確かつ迅速になすべきことに取り組む生徒像を目指す。

「^{試行錯誤}主体性」…なすべきことを考え、判断し、責任をもって取り組む態度。自らの取組を振り返り、成果と課題を踏まえて改善と充実を図っている生徒像を目指す。

3 何を学ぶか【教育課程の編成】

「何ができるようになるか」を目指した学校のエデュケーションの計画となる教育課程の編成にあたり、次の3点を重点とする。

○コミュニケーション力（言語能力、情報活用能力）

○問題発見・解決能力

○協働する力

○「コミュニケーション力」について

(1)言語能力

言葉は、生徒の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や基盤となるものである。教科書や教師の説明、様々な資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたり、他者の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることができるのも、言葉の役割に負うところが大きい。したがって、言語能力の向上は、生徒の学びの質の向上や資質・能力の育成の在り方に関わる重要な課題として受け止め、重視する必要がある。

また来るべき Society5.0 を見据え、生徒に身に付けさせるべき資質・能力として、数学的思考力とともに基礎的読解力が基盤的な学力としても位置づけられている。

(2)情報活用能力

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。将来の予測が難しい社会において、情報を主体的捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでい

くためには情報活用能力の育成が重要となる。この情報活用能力も、Society5.0を見据え、生徒に身に付けさせるべき資質・能力である。

なお、このコミュニケーション力は「中1ギャップ未然防止事業」において本校区の課題解決に向けて取組を進めている「自殺予防プログラム」で育成を目指している資質・能力でもある。

○「問題発見・解決能力」について

物事から問題を見だし解決を目指し実行し、それを振り返り新たな問題発見・解決につなげていく過程を重視した深い学びを各教科等で実現する。さらに、総合的な学習の時間における横断的・総合的な探求課題や、特別活動における集団や自己の生活上の課題にも取り組み、各教科等で身に付けた力が統合的に活用できるようにする。

○協働する力

「協働性」について、次のように共通理解を図る―他者と目的や課題を共有し、互いの良さを生かし、多様性を尊重して、課題解決を目指す態度。

学校だからこその学びの機能であり、また学習指導要領が要請する主体的で対話的な深い学びを実現にも資する態度となる。この「協働性」を育成する上で、次の事項に留意する。

・「他者と目的や課題を共有」

まずは目的や課題を共有することがそのスタートとなる。その相手は、多くの場面では学級や学年の仲間や教員となるが、場面の設定を工夫することで異学年さらには異校種の児童生徒や地域住民もその対象となることを想定しておく。

・「互いの良さを生かし、多様性を尊重」

目的や課題を仲間で共有した後は、その解決に向けた計画（見通し）を立て、役割を分担することになる。その担った役割に対して、どれだけ責任をもって、粘り強く取り組むことができるかが、「互いの良さを生かし、多様性を尊重」するために必要十分条件となる。これがなければ協働のしようがなく、役割を果たさない生徒は“お客さん”となる。“タダ乗り”は厳に慎まなければならない。

・「課題解決を目指す態度」

まずは自分なりの意見や考えをまとめたり作品を作成したりする。そして、共有した集団の目標を意識し仲間と関わっていく。課題解決を目指し、この交流を実行することで、互いが価値ある他者となり、協働性が培われることとなる。さらに、ゴールに到達したあとに、他者とのかかわりに着目した視点を意図的に設定し振り返らせることで協働性の質を高めていくことになる。

こうしてみると、既に教育活動の多くの場面で実践されていることばかりであることがわかる。つまり、何か新たな、または特別なことに取り組もうというのではなく、本校の教育活動を通して育む資質・能力として「協働する力」を設定することで、さらに意図的・目的的に教育課程を実施し、その質を向上させ学習効果の最大化を図ろうということである。

コロナ禍により GIGA スクール構想の進捗の速度が上がり、本校に一人 1 台のタブレットが配備され、すべての教室でインターネットに接続できる環境も整備された。それを最大限に活用し、さらに主体的で対話的な深い学びを確かに実現し、学習指導要領の内容をすべての生徒に身に付けさせることが求められる。

ICT 機器の活用と主体的で対話的な深い学びの関係の具体について、「学びの自立化と個別最適化」と「STEAM 教育」に着目したい。ICT 機器の活用により学びの自立化と個別最適化が図られたことにより一人一人の学習への主体性が高まり、それにより習得された知識・技能を STEAM 教育で活用する子どもることにより思考力・表現力・判断力や学びに向かう力、人間性などが育成されたとの報告がされている。

「コミュニケーション能力（言語能力、情報活用能力）」「問題発見・解決能力」、それに「協働する力」は、いずれも（またはこれらが一体となって）STEAM 教育の基盤となる資質・能力である。このようなことから、本校の「何を学ぶか（教育課程の編成）」に「協働する力」を設定することとした。

4 どのように学ぶか【教育課程の実施】

教育課程を実施する上での重点であり、組織的な取組を進め、その徹底と改善・充実を図っていく。

○主体的で対話的な深い学びの実現（教務部所管）	キャリア・パスポートの活用
○タブレットの積極的・効果的な活用（教務部所管）	
【基礎的・汎用的能力】	
○キャリア教育の推進	
ア 人間関係形成・社会形成能力（学年部所管） イ 自己理解・自己管理能力（指導部所管） ウ 課題対応能力（生徒会部所管） エ キャリアプランニング能力（学年部所管） の育成	

【教務部所管事項】

○主体的で対話的な深い学び

《 校内研修の中核 》

○タブレットの積極的・効果的な活用

今年度の研修成果を着実に発展させ、主体的で対話的な深い学びを実現する。単元の指導計画においてパフォーマンス課題を設定し、習得と活用を適切に位置づけ、指導事項を習得させる。習得と活用のそれぞれの場面において“1人1台”のタブレット端末を積極的に活用し、その効果的な方法を探っていく。

【指導部所管事項】

③キャリア教育の推進ー イ 自己理解・自己管理能力の育成

生徒指導の3つの機能（自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する）を生かした指導体制を確立。きまりやルールの意味や目的を理解させ、自らを律し、よりよい生活習慣の確立に向け主体的に行動する生徒を育成する。

【生徒会部所管事項】

③キャリア教育の推進ー ウ 課題対応能力の育成

よりよい学校生活を目指し、PDCAサイクルに基づく生徒会活動を推進させる。学校行事の企画や運営にあたっては、生徒自らが主体的に取り組み、振り返る内容を明らかにした計画を作成する。

【学年部所管事項】

③キャリア教育の推進ー ア 人間関係形成・社会形成能力の育成

「ほっと」の結果を踏まえ、支え認め合おうとする学級・学年集団づくりを推進する。

ー エ キャリアプランニング能力の育成

各学年の発達段階や生徒の実態を踏まえ、キャリア学習を実施する。

「どのように学ぶか（教育課程の実施）」の内容について、所管各部において具体的な取組内容を策定し、教頭が「令和3年度苫小牧市立明野中学校カリキュラム・マネジメントの推進について～教育の重点と検証項目～」にまとめる。1学期末及び2学期末に生徒アンケートを実施し、その結果を踏まえて各所管部において「改善プラン」を作成・実行することでカリキュラム・マネジメントを推進させ、教育活動の質の向上と学習の効果の最大化を図る。なお1、2学期末に実施する生徒アンケートは「キャリア・パスポート」を活用することとし、「目標」の一部に学校設定項目を位置づける。

さらに学校職員人事評価シートもこの取組の推進と関連づけて作成することで、組織として一体的な取組を推進させ、また事務処理の負担軽減を図ることも狙い、働き方改革に資するものとする。

5 教職員と生徒の行動指針【心得】

(1) 教職員

輝く社会を切り拓き、幸せな人生の主人公となるための資質・能力を生徒に確実に育むために、

- それぞれのキャリアステージに応じた課題や、生徒及び保護者、地域と**向き合う**
- 同僚性を基盤に**支え合う** **認め合う**

先を生きるものとして「学びの専門家」を自負し、生徒と共に成長する教職員でありたい。大切なのは「最終学歴」ではなく、「最終学習歴」を更新し続けること。

(2) 生徒の行動指針

- 向き合う**…夢、目標、将来、進路、立ちはだかる壁、自己の課題、学習、勝敗等から逃げずに、真剣に、失敗を恐れずに向き合う
- 支え合う**…学級、部活動等で仲間と互いに助け合って、支え合って共に伸びていく集団を創る
- 認め合う**…自他を大切にする気持ちを持ち、良いところ（価値）を発見し、それを伝え合う

6 実施するために何が必要か【教育活動の基盤】

(1) 「明野中学校区学校教育力向上エリア会議による小中連携教育の推進」について

学力向上、特別支援、生徒指導の3部会が主体となって、エリア経営会議の方針を具現化する取組を進めていく。各部会の重点については、明野小学校、明野中学校の経営計画との関連を図り、

本校区の課題の解決及び「15歳の子どもの姿」の具現化に資するものとする。特に今年度は学力向上部会に教育課程改善検討部会を新たに設け、「自主性・主体性」の育成を目指し、教育課程の接続を強化する。

なお、生徒指導部会が中核となり、各部会と連携・協働しながら、道教委から指定をいただいている「中1ギャップ未然防止事業」の取組を継続して推進していく。

さらに、こちらも道教委からしてされている英語教育支援事業の推進にあたって、明野中学校区におけるALTの効果的な活用を促し、外国語教育の充実を図っていく。

(2) 働き方改革の取組の着実な推進

- ①「やめる・減らす・変える」の発想で業務を見直し、まずは学校としてできることから業務のさらなるスリム化と効率化、さらには負担感の軽減を図り、「在校等時間から条例で定める勤務時間等を減じた時間を1か月で45時間以内、1年間で360時間以内」とする「北海道アクション・プラン」の目標に迫る。
- ②「苫小牧市部活動ガイドライン」の完全実施。
- ③上記の取組により教職員に潤いと活力を生み、教育活動の質を高める。

7 安全・安心を守る【教育活動の基盤】

生徒や保護者、地域からの信頼なくして学校教育を推進することはできない。その最も重要な土台となるものは「生徒の安全・安心」である。胆振東部地震等の経験をもとに改訂された「苫小牧市学校防災マニュアル」に基づき、学校危機管理マニュアルを見直し、保護者や地域と共有することで、より実効性あるものにする。

さらに、交通違反・事故の防止を入口に、「指導する子どもに恥じない行動を」を合言葉に体罰の禁止や個人情報の保護・管理の徹底等の服務規律の遵守に引き続き努める。